

党幹部座談会 『希望の新時代』へ

<4>

山口那津男代表 今年は衆院選、夏の東京都議選はじめ

年頭から大型の統一外地方選が相次ぐ。コロナ禍で各地の新春賀詞交歎会も開催できな

いなど党活動が制約を受ける状況が続くが、党は結束して

底力を発揮し、全ての戦いを

断じて勝ち抜こう!

西田 実仁選挙対策委員長 次期衆院選に向け公明党は小選挙区の予定候補として10人を公認した。小選挙区では、東京12区、神奈川6区で候補者が交代、新しく広島3区で議席確保に挑むなど、いずれもかつてない厳しい戦いになる。小選挙区10人の全勝へ総力を挙げたい。比例区も、前回以上に支持を広げ、党の得票を拡大したい。

石井幹事長 「政権選挙の選舉」であり、問われるのは、自民、公明両党による政権運営への評価だ。両党が連立政権を発足させてから今年で22年。長きにわたって日本のかじ取りを担当してきた自公連立政権の成

功が、社会保障制度を全世代型へと転換し、教育無償化を充実させたのは画期的だった。同時に、その財源として

政治が安定している日本の存

在感・期待感は確実に高まつ

ており、具体的な投票行動につながった。

北側副代表 最近の成

果で、社会保障制度を全世代型へと転換し、教育無償化を充実させたのは画期的だった。同時に、その財源として

政治が安定している日本の存

在感・期待感は確実に高まつ

ており、具体的な投票行動につながった。

西田 市議選では、公明党は全体の38%に上り最

多だった。「長年にわたる与党としての活動が高い知名度につながった」(2019年1月22日付毎日夕刊)と分析され

る。小選挙区10人の全勝へ総力を挙げたい。比例区も、前回以上に支持を広げ、党の得票を拡大したい。

衆院選、都議選断じて勝つ



石井幹事長



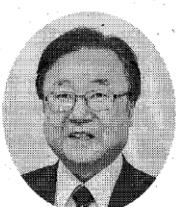
山口代表



高木国対委員長



北側副代表



中島地方議員団会議議長



西田選対委員長

都議会公明党 コロナで37回の緊急要望

東京都議選に公明党は、21選挙区に23人が挑む予定だ。こ

う場面を多く見てきたが、公明党的掲げる「清潔な政治」の推進もそうだ。

西田 一方、夏に行われる東京都議選に公明党は、21選挙区に23人が挑む予定だ。こ

う場面を多く見てきたが、公

明党的掲げる「清潔な政治」

の推進もそうだ。

中島 1963年に17議席

と躍進したのをきっかけに

「伏魔殿」と呼ばれた都政の

大掃除に挑み、65年の議長選

出を巡る贈収賄事件を機に、

リコール(解散要求)運動を展

開。出直し選挙で公明は23議

席に大躍進した。この「リコ

ール解散」を機に統一地方選

と異なる選挙日程になつた。

また、都議会公明党は血税を

くみ上げた声を基に、都知事

の口火を切り、都政史上初め

て各党間で自潔を申し合わせ

た。その動きは全国の地方議

会にも波及していくた。

高木 都議会公明党は、東

京をトップレベルの「福祉先

導や子ども医療費の無料化

など「東京発」の政策として

全国に普及した政策が多い。

國政で公明党がリードした私

立高校授業料の実質無償化の

対象拡大も、都が先行して実

施したものだ。

北側 「調査なくして発言

なし」という公明党的政治手

法を全国に先駆けて身をもつ

て示したのも都議会公明党

だ。63年に議員自らが、屎尿

運搬船の船底を調査し、大量

の屎尿が隅田川に不法投棄さ

れている証拠を突き止め、隅

田川の浄化につなげた。有名

な話だ。その後の「在日米軍

基地総点検」はじめ公害、海

洋汚濁、物価、通学路、介護

など――今日まで無数に続く

党の総点検運動へと広がつて

いた。政治に「現場発」を

導入、定着させてきた意義は

大きい。

石井 コロナ対策や、ボス

トコロナの新時代を築く上

で、国と地域が連携し、地域

の実情に応じた対策を講じて

いくことが重要になる。その

意味で、国と地方議員の党の

ネットワークの中軸の役割を

果たす都議会公明党的手腕に

期待は高い。都議選での全責

当選を党の総力を挙げて勝ち

取りたい。

山口 その通りだ。次期衆

院選も控えており、一つ一つ

の選挙で勝利を積み重ねてい

くことが大切だ。まずは間近

に迫った北九州市や岡山県倉敷市、大阪府茨木市、埼玉県

戸田市など統一外選挙で全責

当選を果たし、連続勝利の波

を起こしていく。